

日銀神戸 支店長の 視点



別所昌樹氏

週末に、ふらりと日帰りで播州を訪れることを好きな楽しみとしています。目的の一つは、ローカル線です。

JRだけでも今年全通100周年の加古川線、姫路からは播但線と姫新線、相生からは赤穂線があります。車窓から眺める風景には心安らぎますし、沿線の街歩きもいものです。そんなある休日、姫路で時間をつくり兵庫県立歴史博物館の特別展「ひょうご鉄ものがたり」を見てきました。

見に行った理由には、仕事で当地の経済動向をウォッチする中で、鉄鋼業の存在の大きさを感じていたこともあり、昨年、兵庫県の鉄鋼業の出荷額は愛知県に次ぐ全国2位、県内の製造品出荷額

播磨の森と水、そして鉄

の15%弱を占める最大の産業中分類です。また鋼材は、自動車をはじめとする機械や建設・土木に用いられるので、それらの産業の動向を把握するうえでも目が離せません。さらに、水素直接還元製鉄や、電炉の活用拡大といった脱炭素化に向けた当地企業の取り組みにも注目しています。

特別展では、西播磨北部の製鉄の歴史が示されています。コークスで鉄鉱石を還元する近代製鉄と異なり、日本古来の「たたら製鉄」では木炭で砂鉄を還元していました。木炭は木を伐採して作られ、砂鉄は水の流れを利用して土砂から分離されたため、豊かな森と揖保川流域の水に恵まれた現在の宍粟市や佐用町で製鉄が栄えたそうです。

そういえば、今月公開の映画「ルート29」は、姫路と鳥取を結ぶ国道の旅物語で、西播磨北部の森や湖が登場します。早速、見てきましたが鑑賞中、特別展で学んだ森と水と鉄のつながりのこともふと思い出しました。